

合わせて知りたい

国県市が連携

加古川の整備分担



加古川の整備は高砂市（河口）から加東市までを国（国土交通省姫路河川国道事務所）が、西脇市から丹波市までを兵庫県（加東・丹波土木事務所）が担っています。市内では、支流の杉原川、野間川の整備も兵庫県（加東土木事務所）が行っています。

一方、西脇市は「流す」「貯める」「備える」を基本とした宅地の浸水対策を行っています。

平成28年設立

加古川中流部河川整備推進協議会



平成16年台風23号で加古川中流部の西脇市や加東市が被災したこと、その後数年おきに発生した大雨による洪水を受け、国や兵庫県、管理区間をまたぐ西脇市、加東市は4者が連携・協力し、地域と一体となって、集中的で計画的な対策を実施するための協議会を設立しました。会では西脇・加東地域の河川整備の課題を共有し、10年間の整備目標や実現に向けた役割分担を明確にした上で、平成16年と同規模の洪水に対する浸水の軽減を目指します。

このうち西脇市内では、黒田庄町福地・大垣内～下戸田周辺での河床掘削を実施するとともに、西脇（豊川町）・小坂町周辺の杉原川井堰改築工事も実施。加東市内では、滝見橋の改築、築堤のための用地取得なども実施します。



整備のワケ
— 度重なる被害

加古川は丹波市を源に、河口の高砂市まで延長96kmを流れ、西脇市はその中流部に位置します。

加古川では、洪水による災害が過去に何度も発生。特に西脇市内では、平成16年台風23号で1393件の床上・床下浸水があり、1人の方がお亡くなりになりました。さらに、同じく中流部に位置する下流の加東市でも、甚大な浸水被害が発生しています。

これを受け、加古川を管理する国や兵庫県は、平成16年以降、

約7年間を計画期間として、西脇市や加東市周辺の川底などの掘削や河川の拡幅などの工事を順次実施してきました。

しかし、平成23年、25年、30年等にも浸水被害が発生し、今後起こりうる災害を未然に防ぐための課題の見直しと、さらなる対策に迫られています。

会の設立と情報共有

平成28年、国と兵庫県、西脇市、加東市は加古川の整備に関する情報共有のため、「加古川中流部河川整備推進協議会」を

西脇市を流れる加古川は、杉原川や野間川などと合流しながら瀬戸内海へと流れる一級河川です。河川は農地を潤し、地域経済を支えるなど、私たちの暮らしと密接に関係しています。しかし、時に河川は一変し、増水による河川の氾濫は全国的に後を絶ちません。加古川も記録があるだけで100回を超える洪水が発生しており、西脇市内では平成16年に約1400件の浸水被害が出ています。地域の治水安全度向上のため、今、加古川では国や県、市が連携して治水整備を進めています。次の災害に備えて——。行政と市民がそれぞれの立場から、暮らしの安全・安心を守る取り組みを紹介します。

▼問合せ 経営管理課（市役所内線2090）・工務課（市役所内線2104）

設立。それぞれが進める事業を相互に理解し、中流部の上流・下流が効果的に整備できるように取り組みを開始しました。

河川の「流す」能力を向上させるには、川底の掘削や堤防を強化する築堤などの工事、井堰、橋の改修工事を行います。工事によって施工箇所の「流す」能力が高まる一方で、下流の「流す」能力が低いと、越水等の危険性は変わらません。そのため、上下流のバランスに配慮した整備が不可欠です。協議会では、上流（県・西脇市）と下流（国・加東市）が連携しながら10年計画を定めて工事を進めており、会の取り組みは全国でも珍しいとして、注目を集めています。

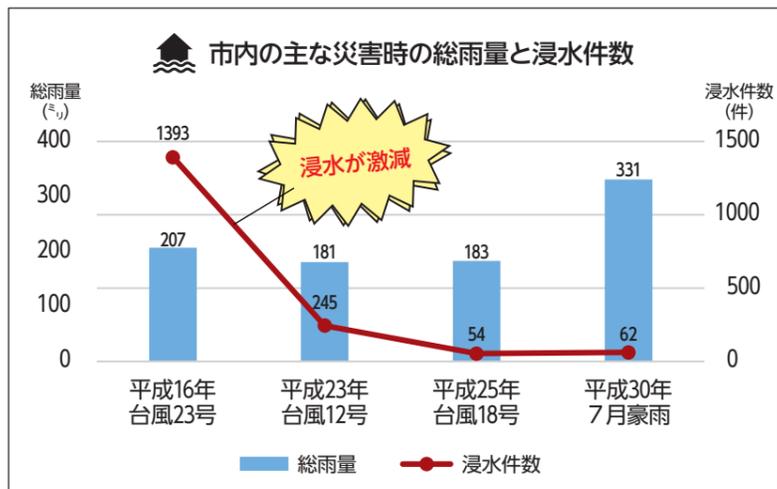
▼平成16年台風23号で被災した西脇市内。河川整備のきっかけに。



進む、加古川治水整備

中流部の

水害から学ぶ行政と市民のお話



出典：西脇市地域防災計画（令和3年度修正版）

整備による効果

河川整備の効果は大きく表れていません＝左図。
西脇市に初の大豪雨特別警報が発表された「平成30年7月豪雨」では、平成16年台風23号と比較して総雨量が多かったにもかかわらず、浸水被害は激減しました。



◀平成30年7月豪雨で浸水した黒田庄町田高
▼水の学習会で樋門操作を実践

市民の手で守る安全

行政による河床掘削などの整備が完了し、河川の流況が改善されても、地域内を流れる用水路の越水といった「内水対策」は不可欠です。平成30年7月豪雨で浸水被害を受けた黒田庄町田高では、経験に基づき市民の手で浸水などの被害を防ぐための取り組みを進めています。

自分たちの手で地域を守りたい

行政が実施したハード整備に加え、今度は自分たちの手で地域を守りたいと思っています。市と開いた「水の学習会」は知らなかったことが多く、地域を流れる水のことを学ぶ良い機会になっています。今後、大雨が予想されるときには、まずはタイムラインに沿って用水路の除草やごみの除去などの事前対策を徹底したいと思います。そして、大雨時には記録簿を付け、その後の教訓にしたいです。



黒田庄町田高区長 荻野泰久さん

水を知り、次に備える
被災後、西脇市は同集落に内水対策の工事を実施。加古川に接続する用水路の堤防を強化し、加古川からの逆流を防ぐ樋門も整備しました。

集落を歩いて再確認
学習会を踏まえ、事前対策の重要性を認識した役員は集落内にあるせき板の場所を再確認し、大雨時のせき板操作の分担を決めました。
また、梅雨入り前には樋門の操作確認を実施。教訓を基に、自分たちの手で浸水を防ごうと、次の大雨に備えます。

あつとつ間の浸水
加古川に隣接する田高集落は、平成30年7月豪雨で住宅や道路、田んぼが浸水しました。集落内の山側から流れ出す水と、加古川から逆流する水によって、浸水はあつとつという間の出来事でした。集落では、ポンプを使って排水作業を実施しました。

また、当時の用水路の水位やせき板の開閉状態を聞き取り、大雨前の行動計画（タイムライン）を作成。集落の役員は市とともに、これまで9回の「水の学習会」を開いて水の流れに関する知識を深めています。

行政の整備で守る暮らし

加古川中流部河川整備推進協議会で策定した計画に基づき、西脇市内では4カ所で整備が順調に進んでいます。また、加東市でも堤防整備を行っています。

河床掘削

大垣内く下戸田周辺の工事が令和3年度までに完了しました。写真①②。掘削により、河川の横断面積が広くなると増水時の水位上昇が抑えられ、越水の危険性が減少しました。今後は、黒田庄町福地周辺の掘削作業を行います。

井堰改築

井堰には河川の流量を調整したり、水を田などへ引いたりする役割があります。加古川の支流・杉原川では、通水断面を広げるために2つの井堰の改築工事を実施。河川の「流れの改善」を目指します。

西脇（豊川町）周辺の沖田井堰では、令和5年の完成を目指して川底の掘削などを行っており、整備によって、施工箇所での河川水位の上昇が格段に遅くなることが期待されます。写真③④。
また、小坂町周辺の和田井堰でも改築工事が進み、同じく令和5年の工事完了を見込んでいます。

用地取得・築堤

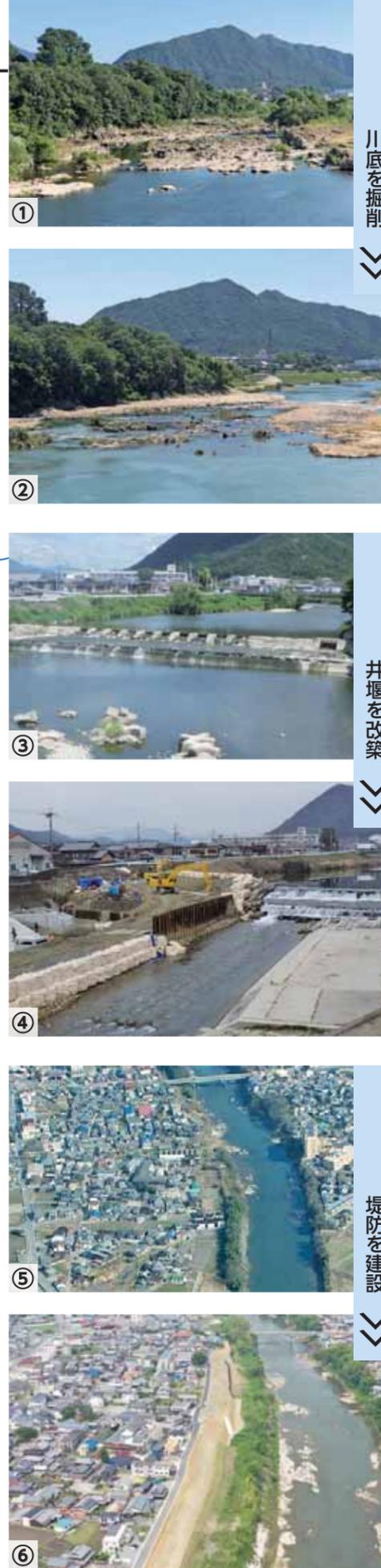
加東市でも、平成16年台風23号によって滝野地域で浸水被害が発生。西脇市内同様、流す能力を向上させるために、複数箇所掘削が行われています。加えて、同地域では築堤工事も進んでいます。築堤とは、堤防を建設することで、これによって地域を洪水から守ることを目指します。建設には用地取得が必要となり、加東市内では約140件の市民の協力のもと、大規模な工事に取り組んでいます。写真⑤⑥。

上下流のバランスを保つため、加東市内での整備が進むことで西脇市内でも効果的に整備することができています。

関係機関への要望活動



河川整備促進のため、近隣市町と連携して、国（国土交通省・財務省）や兵庫県を訪問。工事の推進や、必要な予算確保の要望活動も行っています。



川底を掘削

井堰を改築

堤防を建設